

講義名	19-観光コミュニケーションB/15-観光英語B			授業形態	
担当教員	中川 典子	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

グローバル社会の進展に伴い、海外へ旅行する日本人、そして、海外から来日する外国人観光客の数は増加の一途をたどっている。また、日本における観光産業の充実を図るための諸施策も大きな課題となっている。特に、旅行・観光・ホテル・レストランサービス等の業種にあつては、英語の運用能力だけでなく、業界専門用語や独特の言い回しなど、業務遂行に必要な英語力を持ったプロの養成が急務であり、このような能力をもつ人材への高い需要がある。本コースでは、ツーリズムやホスピタリティビジネスなどに興味のある受講生が明確な目的を持ち、ツーリズムのプロとして必要な英語を楽しみながら学べる授業を編成する。「英語を学ぶ」というよりも、「英語で「観光業務を学ぶ」という姿勢で取り組んで欲しい。上記は「観光ビジネスのスキルを備え、高い人間力を有する学生を育てる」という観光学科のディプロマポリシーに貢献するものである。

到達目標

- (1) 「旅行業」「航空業」「ホテル業」といった観光産業に必要な英語表現を習得できるようになる。
 - (2) 観光コミュニケーションに必要なリスニング、スピーキング、リーディングのスキルに加えて、観光産業の基本的な知識を得られるようになる。
 - (3) クラスメイトとのロールプレイにより、実践的な英語コミュニケーション力を養えるようになる。
 - (4) 糸巻を通じて、文化の多様性を理解し、発音できる異文化コミュニケーション力を養えるようになる。
- 上記の到達目標は、海外の観光満足を得るために必要なホスピタリティと英語によるコミュニケーション力を用い、観光英語検定の受験に必要な知識が得られることから、「観光ビジネスのスキルを備え、高い人間力を有する学生を育てる」という観光学科のディプロマポリシーに達成に役立つ。

提出課題

- (1) 観光英語検定2級の単語集から、毎回1ユニットに解答し提出する。
- (2) テキストの内容に基づく演習問題からなるワークシートを提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題の解答を提示する際、受講生にとって特に重要度の高い英文法や英語表現について詳細に解説する。

評価の基準

- (1) 課題 (50%)
- (2) クイズ (20%)
- (3) 定期試験 (30%)

履修にあたっての注意・助言他

- (1) コースの評価は、上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行うが、一つでも不参加の項目がある場合は不合格となる。
- (2) 講師が入室したときに教室にいない学生は遅刻者と見なす。特別な理由がない限り遅刻厳禁。
- (3) 規定の時間以上の遅刻は欠席となり、また、規定以上の回数を欠席すると単位が取得できない。
- (4) 教科書は必ず購入すること。当然、購入しているという前提で授業を実施します。教科書がないことにより生じる不都合は自己責任となる。また、教科書を購入しない人は単位を取得できない。
- (5) 提出課題を含むすべての連絡はRyuka Portalの「講義連絡」を通じて行うので、必ず毎週確認すること。

教科書

.English for Tourism Professionals.	Reiko Fujita	National Geographic Learning	2,400	978-4-86312-356-4
-------------------------------------	--------------	------------------------------	-------	-------------------

参考図書

その他

適宜、「講義連絡」に提示する。

授業計画

- 回 授業計画
1. Course Guidance, Unit 8 Working at the Boarding Gate (1) Vocabulary & Listening Exercise
 2. Unit 8 Working at the Boarding Gate (2) Reading & Pair Work
 3. Unit 9 Offering In-flight Services (1) Vocabulary & Listening Exercise
 4. Unit 9 Offering In-flight Services (2) Reading & Pair Work
 5. Unit 10 Giving CIO Information (1) Vocabulary & Listening Exercise
 6. Unit 10 Giving CIO Information (2) Reading & Pair Work
 7. Unit 11 Taking a Room Reservation (1) Vocabulary & Listening Exercise
 8. Unit 11 Taking a Room Reservation (2) Reading & Pair Work
 9. Unit 12 Welcoming Guests (1) Vocabulary & Listening Exercise
 10. Unit 12 Welcoming Guests (2) Reading & Pair Work
 11. Unit 13 Helping Guests (1) Vocabulary & Listening Exercise
 12. Unit 13 Helping Guests (2) Reading & Pair Work
 13. Unit 14 Dealing with Complaints (1) Vocabulary & Listening Exercise
 14. Unit 14 Dealing with Complaints (2) Reading & Pair Work
 15. Unit 15 Sending Guests Off Vocabulary, Listening Exercise & Pair Work
- * 前掲のように、教科書を購入せずに受講した場合、単位は取得できません。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 予習：観光英語検定の課題やテキストの補助教材として講師が作成したワークシート、教科書の演習問題に取り組み、（2時間）
 復習：その日の学習内容の復習（テキスト内容のリスニング、会話文やリーディングセクションの音読を含む）およびクイズで間違えた箇所の確認、等）（2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

このクラスは以下の点において、「観光ビジネスのスキルを備え、高い人間力を有する学生を育てる」という観光学科ディプロマポリシーに沿ったものである。
 (1) 海外の観光満足を得るために必要なホスピタリティと英語によるコミュニケーション力を培うことができる。また、授業では観光英語検定の受験に必要な知識が得られるため、観光業界に就職した際、それを活かすことができる。
 (2) ホテルやライダル関連企業で就業する際に必要な英語コミュニケーション能力だけでなく、特にホテル業界で仕事を遂行するうえで必須の知識も習得できるため、「ホテル業」といった観光関連産業や地域の観光団体に就職した際にも実践することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

会話文の役割演習クラスメートと行い、ペアで各ユニットのテーマに基づくスキットを作成し、クラスで発表することにより双方向性授業を目指す。

実務経験の有無及び活用

備考

前掲のように、教科書を購入せずに受講した場合、単位は認定されません。教科書を持っていないことによって起こる不都合は自己責任となります。第1回目の授業で履修に関する重要事項を伝えるので、必ず出席すること。